

## 「利根川水系渡良瀬川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：平成29年9月3日（日）10:00～10:20

会 場：①国土交通省関東地方整備局渡良瀬川河川事務所

発言者：公述人1

おはようございます。私は足利市■■■に住んでいます■■■と申します。今現在、勤めも足利工業大学に勤めています。「あしかがみ」の方にも、このカスリーン台風の表紙ですか、今年の9月号に載っていました。それに伴っての意見かなと思ひまして、簡単に書いてみました。それでは始めさせていただきますと思います。

それでは、誠に恐縮ですが、一言、意見を述べさせていただきたいと思ひます。

足利市の市街地中央を流れる渡良瀬川の清流は、私たち足利市の貴重な財産であり、日々の生活の中で、憩いや潤いなどをはじめとし、様々な恩恵を与えてもらっています。

しかしながら、このような渡良瀬川ではありますが、ひとたび、その姿を変えると、人間が如何ともしがたい自然の脅威へと変貌します。茶色に濁った水がごうごうと流れる光景は、時には、恐怖すら感じることもあります。

過去、昭和22年9月のカスリーン台風では、渡良瀬川流域で790名、本市においても、319名の尊い命や市民の貴重な財産が奪われるなど、大変、辛い経験もしてきました。あれから、今年で70年、現在まで、そのような大きな被害は発生してはいませんが、このようなことは、二度と繰り返されないことであると思ひています。

一昨年9月の関東・東北豪雨、昨年8月の台風10号、更に、今年の7月に九州北部や東北など、全国各地で記録的な豪雨がありました。それぞれの地域では、市民生活に大きな爪痕を残す甚大な災害が発生しています。

近年では、全国に線状降水帯による長時間の豪雨が発生しており、このような異常気象の状況下では、私たちが住む足利市において、いつこのような豪雨が発生してもおかしくはありません。仮に、関東・東北豪雨の時の線状降水帯が西に数十キロずれて発生したら、そのようなことを不安に思う市民は、決して少なくはないと思ひます。

仮にではありますが、不幸にして、渡良瀬川が氾濫したとすると、被害が広範囲におよび、家屋の浸水や倒壊、道路、上下水道をはじめライフラインなどの寸断など、未曾有の被害が発生すると考えられています。更に加えて、足利学校や鑿阿寺など、足利の顔ともいべき歴史的・文化的な貴重な財産を失ってしまうことにもなりかねません。

私は、現在、■■■に住んでいます。地域柄、足利学校や鑿阿寺は、慣れ親しんだ地域の誇りであり、更に、これらの財産は、足利市民として、将来にわたり、守り続けなければならないと思ひています。

現在、中橋付近では、堤防の高さが不足していることから、水害の危険性が極めて高い、重要な水防箇所指定されていると伺っています。このような危険な箇所は、一刻も早く解消しなければならない。強い危機感を持っているのは、私だけではないと思ひています。

過去には、様々な要因により、課題解決に向けた事業の進展がみられなかったようですが、昨年7月、国の呼び掛けにより、国・県・市の三者で構成する中橋整備検討委員会を立ち上げ、現在、具体的な検

討を進めているとの話を聞いています。まさに、課題解決に向けた大きな一歩であり、私自身、大きな期待を寄せているところです。

大規模な災害が起きてからでは、取り返しのつかない事態になってしまいます。今後、一層、国の職員の皆さんがリーダーシップを発揮し、更に、栃木県・足利市と一体となって、早急に、中橋付近の堤防のかさ上げ、それに伴い中橋の架替を実現していただきたいと考えています。

足利市を大切に思う一市民として、皆さんにお願いをすることで、私の意見とさせていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、以上です。